

用語集-5

✓ 逆指値とは、指値を上回れば買い、指値を下回れば売る注文。

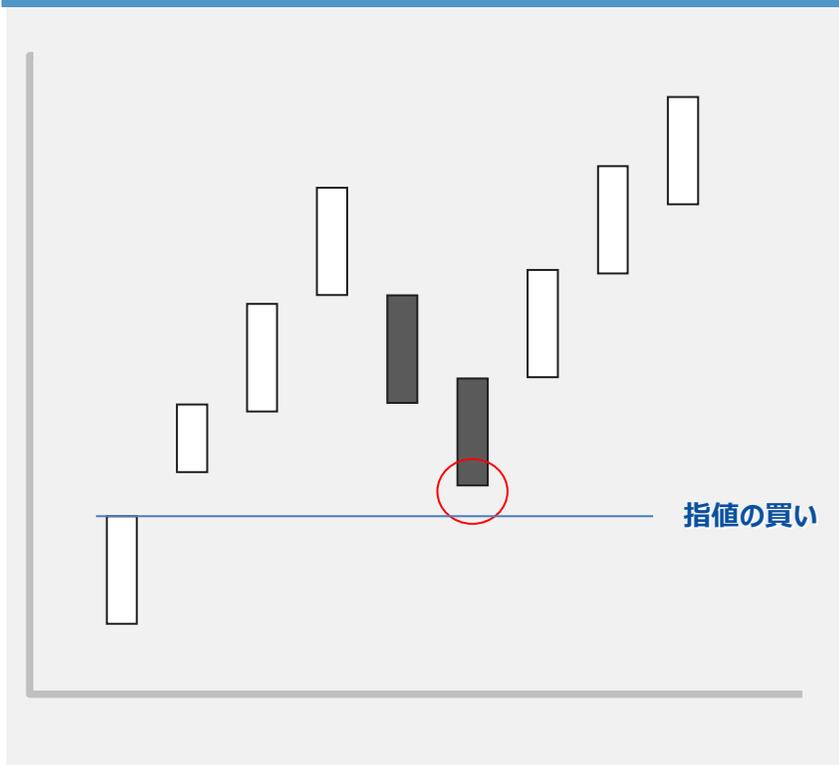
解説

- 逆指値は、投資判断の水準を超えてから売買を執行する。
- 相場動向に追随する逆指値は、上昇局面入りのシグナルを確認してから買う。
- 相場動向に追随する逆指値は、下落局面入りのシグナルを確認してから売る。
- 損失を限定させる逆指値は、相場動向が想定より反対へ振れた場合、一定水準で買いや売りのポジションを解消する。

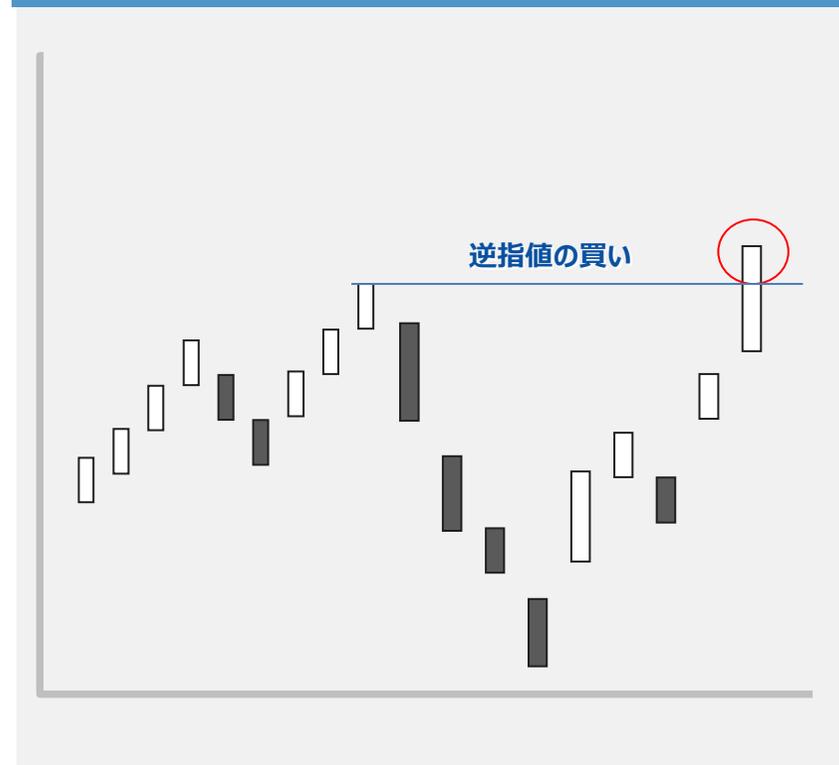
はじめの一歩 テクニカル分析（用語集）

参考イメージ

指値の買い



逆指値の買い



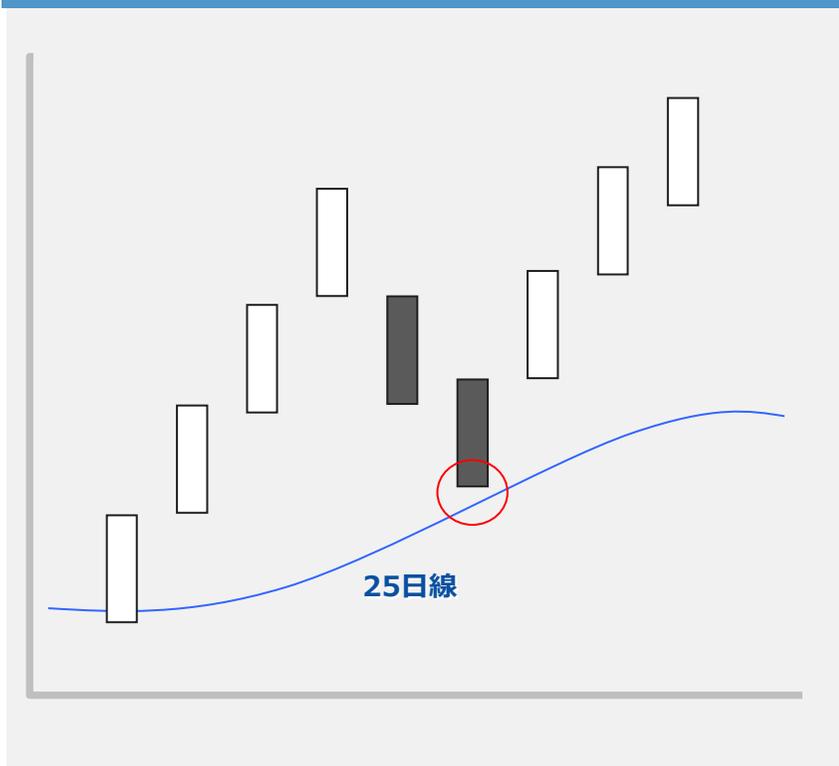
✓ 逆張りとは、価格の反転を見込み、ポジションを持つこと。

解説

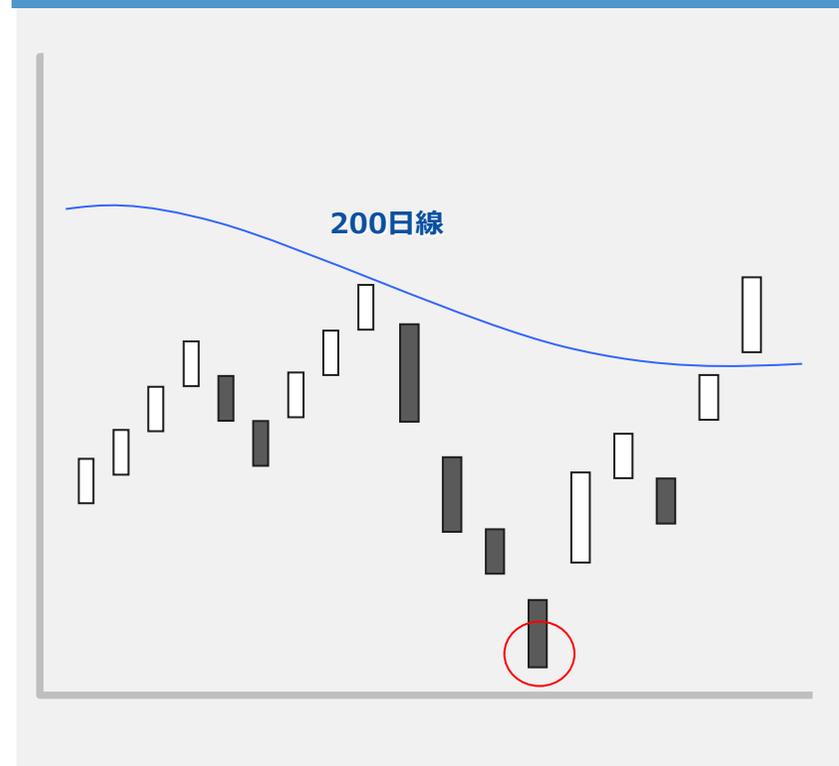
- 短期の逆張りは、目先の反発を見込んで買い、目先の反落を見込んで売る。
- 例えば、上げ相場において移動平均線近辺へ下がった局面で買う。
- 長期の逆張りは、大底圏を想定して買い、天井圏を想定して売る。
- 例えば、下げ相場において移動平均線から下放れた局面で買う。

参考イメージ

逆張りの買い（短期）



逆張りの買い（長期）



✓ **金融工学とは、資産運用を合理的に行う実践的方法論の総称。**

解説

- **金融工学は、主に機関投資家等が用い、合理的なリスク管理・制御を行う。**
- **適切な投資戦略を遂行すべく、リスク考慮後の投資収益率等を計測している。**
- **金融工学は、統計学や物理学等を用い、資産配分や管理方法を考案している。**
- **金融工学が精緻化・高度化されつつあるものの、実際の市場では数年単位で金融危機が発生している。**

はじめの一歩 テクニカル分析（用語集）

参考イメージ

金融派生商品（デリバティブ）



リスク管理



金融工学

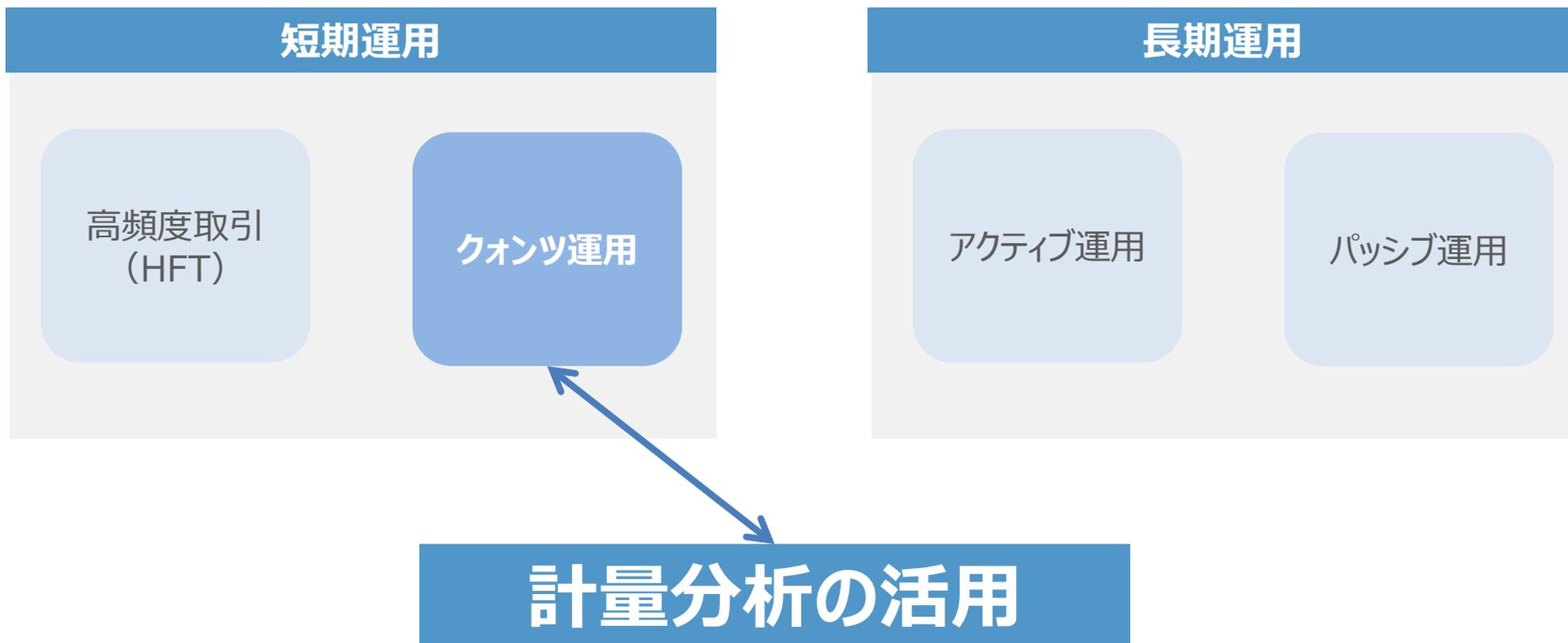
✓ クォンツとは、統計学等を使った運用モデル。計量アナリストの略称。

解説

- クォンツは、統計学や物理学等を用いた運用モデルを指す。
- クォンツは、計量アナリスト（Quantitative Analysts）の略称であり、古くは彼らを「ロケット・サイエンティスト」と呼んでいた。
- クォンツが広まった背景として、米航空宇宙局（NASA）の科学者等が金融街へ流入し、新たな発想を用いて相場に対峙したことが挙げられる。

はじめの一歩 テクニカル分析（用語集）

参考イメージ



まとめ

- ✓ **逆指値とは、指値を上回れば買い、指値を下回れば売る注文。**
- ✓ **逆張りとは、価格の反転を見込み、ポジションを持つこと。**
- ✓ **金融工学とは、資産運用を合理的に行う実践的方法論の総称。**
- ✓ **クオンツとは、統計学等を使った運用モデル。計量アナリストの略称。**